

特集 共創まちづくり 次の一歩を考える

～創立20周年を迎えて～

おかげさまで都市研究所スペースは2010年7月17日に創立20周年を迎えることができました。市民、行政、企業の皆様と共に創るまちづくりを目指して、新たな一歩を踏み出したいと思います。創立20周年にお寄せいただいたメッセージもご紹介いたします。

代表取締役任にあたって

石田 富男

新しいコンサルタントをめざしたいとスペースを設立して二十年。まちづくりやコンサルタントを巡る状況が大きく変わる中で、スペースの今後の展開をどう考えるか。数年前からこの点について議論を始め、二十年を新しいスタートにしようという代表を引き継ぐことになりました。経済情勢が急激に悪化する中で、パトナッチとなり、思案に暮れているというのが正直なところですが、スペースとしての次の一歩について考えてみたいと思います。

スペースでは、コンサルタントを「知的地場産業」「芸術創造産業」としてとらえ、地域にこだわり手づくりのまちづくりをめざしてきました。継続的にまちづくりに関わりたいと、地域のまちづくり活動やNPO活動、学会活動など仕事以外での諸活動に積極的に参加するように努めてきました。このことは個人の専門能力の向上を図り、業務の質を高めたいという意図もあります。いち早くホームページを開発し、メルマガやパダブの発行など情報発信にも力をいれてきました。様々な形でまちづくりに関わり、多くの人たちと連携させていた中で、名古屋圏のまちづくりに対して一定の役割と独自性を示すことができたのではないかと感じているところです。

この二十年でインターネットの普及により様々な情報が発信され、誰もが簡単に情報を入手することができるようにな



このような中でコンサルタントに求められるのは、あふれる情報の中から、将来を見据え、その情報を評価し、取捨選択できる資質だと考えます。時代に流されない「目」を持つことです。さらに、まちづくりをめぐる課題が複雑化する中で、様々な角度からまちづくりに取り組むことが求められます。「手」を広げ、「足」で確かめることです。

とはいえ、最も重要なことは組織を存続させることです。近年、入札では価格競争が厳しく、受注できない状況です。二年ほど前から公募方式のプロポーザルが増えており、新たな分野にも挑戦していますが、さらにコンサルタント業務以外にも業務内容を広げていく必要があると感じています。個人的には地域資源を発掘・売り出すようなこともできないかと思っています。試行錯誤が続きますが、今後ともよろしくお願ひ致します。

取締役任にあたって

浅野 健

スペースに入社したのが一九九六年。振り返ってみると、入社前からアルバイトの形でスペースの仕事に関わり、年度末に夜中まで施設の模型作りを行ったことが、都市計画・まちづくりコンサルタントとしての第一歩でした。以降、広域的な調査や計画づくり、自治体の総合計画をはじめとする中長期計画づくり、地区レベルでの計画づくり、施設建設に向けた調査・構想づくりなど、様々な形で東海地方のまちづくりに関わってきました。そしていつの間にか、スペースの在籍が十五年に差し掛かろうとしています。

近年は、都市計画以外でも観光、福祉、交通、産業など様々な分野のまちづくりに関わり、地域に入って市民、行政などの協働によるまちづくりの現場でも支援をさせていただいています。このような場では、見識の高い市民の方々も参加し、計画立案・運営にも関わる方が増えてきており、異なった考えを持つ人々が議論することもしばしばあります。このような時にこそいかに合意形成を図るかが、コンサルタントに求められていると考えます。

スペースは、昨年七月に満二十年を迎えました。ささやかながら現スタッフや元スタッフ等が集まり、同窓会を開きました。旧交を温めるとともに、こういった身近なところからネットワークを大切にしていきたいと考えています。



たところ。スペースの二十年の歴史という、創設者の三人以外で初めて取締役に就くこととなります。コンサルタント業界、建設業界全般においては、今後ますます厳しい状況が続くことが予想され、先行き不透明なところはありますが、会社全体の今後の方向については、存在感のあるコンサルタントとして、力を発揮していきたいと考えております。

次ページ以降には、スペースの関わりの中から、様々な方々より寄稿をいただきました。それを拝読すると、コンサルタントやスペースへの期待とともに、課題についてもヒシヒシと伝わってきます。試行錯誤を繰り返しながら、これまで関わってきた方々やこれから新たに出会う方々とネットワークを大切に、「共に創るまちづくり」を追求し、各地で個性的なまちの実現を目指して取り組んでいきます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

寄稿 今からのまちづくりコンサルタント

～創立20周年に寄せて～

赤澤 ゆかり 氏、花島 敦子 氏
(有)編集企画室 群



●「今からのまちづくり」建物や道路などのハード整備のまちづくりももちろん重要ですが、ソフト面からみたまちづくりや市民の力を活かしたまちづくりが今後ますます重要になるのではと思います。

YouTube・USTREAM・Twitterなど個人でも情報発信が可能になり、編集の分野では紙を媒体としたメディア自体が大きく変わっていくのではないかと思っています。まちづくりの分野でも、従来とは一味も二味も違う新しいまちづくりが求められていくように思います。

●「コンサルタントに期待すること」 厳しい時代の中、コンサルタントの仕事は時間がいくらあっても足りないとは思いますが、ワークショップや産休育休明けの職場復帰など、新しい働き方の模範になって欲しいです。

●「スペースに一言」 設立以来、ずっと児童分だと感じてきました。嬉しい、おもしろ、流されず、そして楽しく、常に自然体で仕事をしておられる姿は見習いたいものです。矢場町への移転時には大家として、ナゴスペース「地域情報センター」への移転時には紹介者として、移転の際はいつも助けていただいています。ナゴスペースは寒いことを除けば、開放的な空間で来訪者との会話もできるという素敵な環境でとても感謝しています。

●「これまでの経験はもろもろ、新しいアイデアや若い力もフルに使って、ナゴヤに新たな一石を投じて下さい。」

原田 さとみ 氏
タレント エシカル・コディネーター

●「今からのまちづくり」キーワードは「エシカル」です。直訳すると「倫理的な」という意味ですが、「一言で」思いやりです。エシカル・ファッションとは、エコシカルで安全な素材やリサイクル素材を使い、正しい労働環境で公正な賃金で、地域の伝統を大事にした製法で、クリエイティブなファッションのことに言います。そこで大事なのが、現代にあったデザインで質も確かであること。「エシカル」はファッションに限らず、子育てや建築、まちづくりなど様々な分野にあてはまる概念です。例えば、歴史的な建物や街並みを保存し活用する取り組み、またエシカルなまちづくりです。周りの誰をも犠牲にしない、人にも地球にも優しい方法で、裏側にも気を配った「思いやり」のあるまちづくり「みんながハッピー」ですね。

●「コンサルタントに期待すること」 欧州のようなオープンカフェ文化が名古屋にもあつたら素敵だなと思っていました。公共空間のあり方も含めて調査研究し、久屋大通で実際にオープンカフェを設置するなど、全体を見て街を考へ、市民の想いをカタチにできる人達がいることを心強く思います。

●「スペースに一言」 七年前のラバダブ対談をきっかけに、名古屋の街のこれからの興味が湧き、育ててもらった大好きな名古屋に何か恩返ししたいという行動へと繋がりました。まちづくりは専門家だけの仕事ではなく、私たち市民が加わってこそ生きていくことを教えていただいた出会いに感謝です。

吉村 輝彦 氏
日本福祉大学 准教授

●「今からのまちづくり」各地で様々な実践が行われてきた「参加」や「協働」のまちづくりでは、主にワークショップ手法により、明確な目標を持って固定的な枠組みの中で進められたものが少なくない。住民が主体的に意見を述べ、いろいろなカタチで反映されている。しかし、住民の中には参加させられ感を感じたことのある方も、計画をつくらなければならぬ後の活動まで継続しない場合もある。

●「今からのまちづくり」今後のまちづくりを考えると、従来の取り組みに加えて、よりプロセスを重視し、意図的な非構成的なデザインとメントにより対話と交流から様々な発的な行為を創出していくことが求められると思ふ。名古屋市内各所で平成二十一年度から取り組まれている「めい」まちづくりフォーラムでは、「わいわいがやがや会議」の場で、様々な価値観や多様な想いや関心を持つ人たちが出会い、話し合いや分かち合いを通じて、いくつかの「わくわく」できき活動（アクション）が提案されている。緩やかな枠組みの中で、参加者の多様な関心に基づく多彩な活動が生み出されている可能性を感じている。

●「コンサルタントに期待すること」 対話と交流の場をつくる中で、参加者からの自由な発想を大事にするしなやかに緩やかな枠組みづくりを期待したい。また、二十代～三十代前半までの若手世代をまちづくりの現場であまり見かけない。もっと外に出て活動を行うべきだと思う。

●「スペースに一言」 コンサルタント業界の中で、次世代の独自性をどのように展開しているか、今後に期待しています。

田宮 雅雄 氏
高島屋南市街地再開発準備組合 理事長

●「今からのまちづくり」大抵の権利者は、総論では良いとわかっているけど、五年十年先を考えられる人は少なく、個人の認識しか話してくれません。その中で説得を続けることになる。嫌なことと言いついかなければならない。やはり人と人との繋がりをしっかりとっておかないと、まちづくりはできないでしょうね。

●「今からのまちづくり」今や僕らの商店街は、個々の努力で何とかなるような状態ではない。再開発を進めるしか選択肢は残っていない。人が暮らす、営業できるまちづくりのために、大変ではあるが、僕ら自身、これを乗り越えて進むしかありません。

●「コンサルタントに期待すること」 とにかく情報が欲しい。事例の視察も、表側の建物だけではなく、裏側の商店街の状況や、実際の数字など、悪いこともビルが建つ前に知りた。事業にはつきものであるリスクは負いつつも、夢や希望の持てる再開発を示し続けて欲しい。

●「スペースに一言」 僕らの地域は、何度も再開発が立ち消えた過去がある。それまでのコンサルの話は、始めは皆で夢見てもいつしか消えていった。けれどスペースさんとは、もう十年も前、夢は膨らみ続けている。ビルが建つ後も、再開発ビルが繁栄するまで見届けて欲しいですね。

近藤 詩乃 氏
mausim Cafe スタッフ
久屋大通オープンカフェメンバー

●「今からのまちづくり」まちづくりは、私にとって「居場所づくり」だと感じています。久屋大通で働くようになって今年で二年目ですが、お店を中心としたこの場所が自分の居場所になっていきます。お客さんや地域住民とのコミュニケーションを大切にしながら、顔の見える関係が心地よく、励みにもなっています。居場所づくりには、地域とのコミュニケーションが欠かせませんが、コミュニケーションはその人次第でさらに広がっていきます。

●「コンサルタントに期待すること」 名古屋には素敵なイベントや場所があるけど情報発信がうまくできていない。様々な情報媒体を活用した情報発信の仕組みがあると思う。名古屋の魅力がわかりやすく伝わる仕組みを期待したいです。また、名古屋のまち自体に愛着をもってもらおう場所にする必要がある。お祭りやイベントの時は、名古屋を離れた人が「帰って参加したい」と思ってくれる人が増えることが大切です。

●「スペースに一言」 久屋大通のオープンカフェが今以上に発展し参加店舗が増えるように、これからもよろしくお願ひします。そして、久屋大通のゆたかりとした空間を活かして、オープンカフェが名古屋の新たな見所になるように一緒に盛り上げていきたいと思います。

特集：共創まちづくり 次の一歩を考える

鈴木孝一 氏

シビック・リチャードエクス様コンサルティング
センター名古屋店/ディレクター

「名古屋主要都市の賃貸オフィスマーケット」の調査・コンサルティング

●これからのまちづくり
名古屋圏は名古屋駅でのUIC（Urban In-Center）モデルが顕著な特徴。2000年頃を境に名古屋圏が活性化している半面、愛知県、岐阜、三重の地方都市の経済低迷ももたらした。地方都市の中心部は、大型店の郊外への進出と相まって、ますます経済が厳しい状況にある。今後は、地方都市の中心部を、職住近接のコンパクトな都市街地に転換していくべきだと考える。
一方、名古屋圏に目を向けると、栄の地盤沈下が心配だ。広い幅員の道路で基盤が整っているが、自動車の往来によって街が分断されている。豊かな道路空間を歩行者に開放し、栄を居住地と位置づけようか。また将来は、にぎわい創出に向けて、市役所周辺の官公庁機能を栄に移転するくらいの大胆な決断が求められる。名古屋の都心は、せいぜい名古屋駅と栄の東西軸周辺で完結するというのが望ましい個人的には考える。
●コンサルティングに期待すること
コンサルティングには、①様々な事業や取り組みに関連した事象の数値化、すなわち「見える化」すること、②行政と企業、行政と市民といった異なる立場の人々との間で、第三者として仲介すること、③二つの役割がある。国内が疲弊している現状では、これら二つの役割を活かし、海外で活躍するところも考えられる。

●スベシアに一言

「シンク・グローバル、アウト・ローカル」という言葉がある。海外の動向も含めて広く情報を収集して地域のまちづくりに活かす。このような視点に立ち、新しい価値観を生み出すため、外国人をスタッフあるいはインターンシップに迎え入れるのも一つの方法だと思う。今後に期待している。

趙美蘭 氏

DeG11大学建築工学科 講師
元大韓建設社/モロシアンマネジャー

建設監理を専門に韓国で活躍中

●これからのまちづくり
私の場合、大好きな友人たちが名古屋に住んでいる関係で、名古屋にはよく遊びに来ます。学生時代は東京に住んでいましたが、大都会では味わえないマンズスケールが感じられるのが名古屋の魅力だと思います。
韓国で周りの人に名古屋について語る時、名古屋が日本で第三の都市であることに驚いています。名古屋は、ビジネスで訪問する都市だという印象を持っているようです。実際、旅行会社の観光コースを調べても、名古屋は大阪や京都などへ行くとはいく〜二日寄る場所として登場するのが実情です。栄でも大須でもよいですが、日本ではこれは名古屋にしかない、すぐに思い浮かぶようなインパクトのある場所が欲しいと感じます。
夜、栄のまちを歩いていた時、何度か中区役所で若者がダンスの練習をしている光景を目にしました。明かりもない暗闇の中、区役所の玄関ガラスや大理石の外壁に自分達の姿を映しながら一生懸命踊っている彼らの姿を見て、非常に感動しました。このように情熱あふれる若者が活動できる場を新たな名所として支援していく方法はないのでしょうか。新たな名古屋の魅力が生まれることを期待しています。

●スベシアに一言

地元地域を愛し、まちの活気や発展に力を注いでいる姿に感動します。まちがすでに持っている魅力、外国の方に知られていない部分を知らせていくことも大事だと思います。スベシアも名古屋のまちとともに、サステイナブルな会社であることを今後期待しております。

木村雄一 氏

NPO法人市民・自転車ネットワーク
理事長

自転車活用の推進・啓発に取組む自転車ツーキニスト

●これからのまちづくり
先日訪れたデナマーのコンパクトで、氷点下でも自転車を利用し、自転車利用者は手信号などのマナーを守り、また歩行者は歩道がどんなに混んでいても決して自転車道を歩かせません。日本も自転車をもっと活用し、自転車が交通手段の一つを担うまちに変わっていくには何かが重要なのかを改めて感じました。
自転車道などの環境整備と同時に、利用者のルール遵守やマナー向上も必要です。それは強制するのではなく、ファミリーなどの一般利用者がルールやマナーの重要性を自然に認識する機会があればよいと感じています。そんなまちづくりを目指しています。

●スベシアに一言

「住宅テイヘロツバー」として高層西部南街区をはじめ多数の再開発事業に関わる
●これからのまちづくり
東京郊外の再開発では、権利者（一括になって同意書集めも行きませんでした。苦労しますが、様々なドラマがあり、節目節目で権利者の笑顔を見るたびに、やってよかったですと思えます。テイヘロツバーとしても、土地取得が限られる中、立地の良い駅前再開発は魅力的で、積極的に取り組むべきです。また、駅から離れた中心街でも、公益施設や商業業などの生活利便施設を整え、協力したい。昔ながらのアーケード街の再生が期待されます。また、今後は建替え事業も進めたいと考えています。単にマンションを建てて売るだけでなく、共存共栄できる街づくりを目指し、小規模ながらも地域に貢献できる開発のあり方を提案していきたい。
●コンサルティングに期待すること
愛知県はトヨタグループの優良企業が目立ちますが、若い世代の住宅需要が見込めます。企業の集積する三河エリアでの住宅供給を積極的に展開したい。三河方面での再開発事業の提案・推進を期待しています。



H24年秋竣工に向け工事は進む

宇野亨 氏

（株）シラカンシステム/ディレクター
一級建築士事務所 パートナー

日本を代表するアトリ工務所として国際的に活躍中

●これからのまちづくり
建築を造るときはそこどこかがたくなるような空間を造りたいと思っています。しかし、それには使い手の空間リテラシー能力も必要で、建築やまちの空間の使い方を市民と共有している。また、今の建設業界は無理に仕事を作っている感があり、本来は市民に必要なものは何かを根拠から考えなければならぬ時である。そのためには建築だけではなく、土木やコンサルといった基礎となる部分を耕していくことから始めてほしい。こうした活動で建築もまちも、もっと良くなるだろう。

●スベシアに一言

「日本を代表するアトリ工務所として国際的に活躍中」として国際的に活躍中
●コンサルティングに期待すること
建築家にとってまちづくりは入りにくい部分がある。市民から見れば、建物のために来たという先入観があるから。また、まちづくりではさまざまな人が関わるためそれをまとめる能力も必要となる。そうした部分をコンサルといったように仕事をすることでクリアし、建築家の得意分野を發揮できるようなまちづくりを行いたいと思っています。
●スベシアに一言
岐阜大学跡地のコンペ、激戦ですがしっかりと勝ち取りました。



岐阜駅で開催された大文化祭「キフレク」子供たちに住宅を設計してもらい未来の街を作るイベントを開催。

鬼頭弘子 氏

NPO法人ひまわりまちづくり
代表理事

愛知県が主催する人にもやさしい街づくり連続講座を企画・運営

●これからのまちづくり
1003年にNPO設立メンバーになり、「ひまわりまちづくり」に取り組みようになったのは、ハリアリーのまちづくりに障害当事者の参加が不可欠であったこと、障害のあるなしに関わらず、モチベーションの高い仲間が周りにいたからである。その頃から、愛知県にもNPOが数多く生まれ、各地域や様々なテーマで市民が参加できる場が増えてきた。そこはいいことも、参加する市民の多くは、思いがあっても依然として行政への依存が強かったり、知識が不足していたり、議論の技術が未熟であったりする。市民が有効な提案をできる機会がまだまだ少なく、市民として育つためのよい仕組みもない。

●スベシアに一言

「スベシア」の情報をネット検索するだけでは見つからない情報は、必ずスベシアの記事がヒットする。10年間の蓄積があり、事例が文字情報や写真で紹介され、オープンになっていく。大変参考になっている。

片桐栄子 氏

金山商店街振興組合/理事長

磨屋書房の経営者で、名古屋市内商店街の三人の女性理事長の一人

●これからのまちづくり
金山は交通結節点で地の利があり、これまで店主達が力を合わせても何とか経営して来ることができたが、ここに来て厳しい状況にあります。人通りはそれほど減らなくても、使う金額が減少しているからです。
若い店長達に何か一緒にやるように声をかけたり集まってきました。掃除から始まり、イベントに繋がってきています。今、良い人材も集まりつつあり、若者は行動して、変化を起こしたいというエネルギーに溢れています。年寄りの知識もいのですが、若者のエネルギーをまちづくりにうまく活かすことが重要ではないでしょうか。地の利はすでにあります、天

●スベシアに一言

「スベシア」の情報は、金太郎的なた計画（？）にするのではなく、それぞれのまちに合ったまちづくり、地域づくりの見本となり、まちづくりの分野で市民をリードしていくべき。
●スベシアに一言
「スベシア」の情報をネット検索するだけでは見つからない情報は、必ずスベシアの記事がヒットする。10年間の蓄積があり、事例が文字情報や写真で紹介され、オープンになっていく。大変参考になっている。



四日市の水車道維持管理委員会主催の「水車まつり」の様子。

筒井達之 氏

エビス興産 代表取締役
久屋大通公園をよりよくする会

久屋大通でまちづくり活動を展開

●これからのまちづくり
不動産という観点からまちづくりを考えると様々なことに挑戦しています。その一つとして、マンション居住者による餅つき大会を行っています。都心マンションでは誰が住んでいるかわからないことが多い、顔が見える環境づくりができればと思い、8年前からはじめ今でも継続して行われています。今では入居者の方がエレベーターなどで会えば、挨拶しあう関係になっています。
また、東校区を中心に「久屋大通公園をよりよくする会」が立ち上がりまします。久屋大通公園を地域住民の方にとって日常的に身近な場所にしてもらうため、地域の子どものためのイベントを開催しています。生活の中で身近な空間となり、人々が集う場所になるためには、外部の声だけでなく地域住民の思いが必要になります。地域の想いが今以上に大きくなるように活動を続けて行きたいです。
●コンサルティングに期待すること
まちづくりは、お金をかけずにできることを継続していくことが必要だと思います。地域住民が少しずつまちづくりに参加し裾野の広がっていくまちづくりができるように、まちづくりのノウハウをサポートしてもらえれば心強いです。

●スベシアに一言

「スベシア」の情報は、金太郎的なた計画（？）にするのではなく、それぞれのまちに合ったまちづくり、地域づくりの見本となり、まちづくりの分野で市民をリードしていくべき。
●スベシアに一言
「スベシア」の情報をネット検索するだけでは見つからない情報は、必ずスベシアの記事がヒットする。10年間の蓄積があり、事例が文字情報や写真で紹介され、オープンになっていく。大変参考になっている。

岡田邦彦 氏

J-フロントリテイリング/株
相談役

まちづくりの語り部を大事にする

●これからのまちづくり
①地域の歴史や物語を大事にする。②まちを良くしようと努力する人々の絆をつなぎ強めること。③高い品質をめざすこと。ただし合理性に裏付けられていること。④広く世界の人々に呼び掛けること。世界的な発想の必要性。⑤研究と技術の蓄積を大切にすること。⑥人と人とのめくりあるコミュニケーションを大事にすること。古いものは大切に。しかし、革新のバイタリティを忘れないで。⑦目隠れは禁物。謙虚な姿勢と自己規制を持って取り組むこと。⑧世のため人のためという基本姿勢を貫くこと。⑨無償のボランティアの力を信じ、育てていくべきである。
以上の条件は、J-フロントにもある程度通っています。
●コンサルティングに期待すること
まちの人々に抽象的な言葉を使わずに具体的な話を聞かせたい。大事なことを伝える場合には、それにふさわしいイベントや事例を用意して、夢とイマジンエネルギーを刺激していきたい。

●スベシアに一言

「スベシア」の情報は、金太郎的なた計画（？）にするのではなく、それぞれのまちに合ったまちづくり、地域づくりの見本となり、まちづくりの分野で市民をリードしていくべき。
●スベシアに一言
「スベシア」の情報をネット検索するだけでは見つからない情報は、必ずスベシアの記事がヒットする。10年間の蓄積があり、事例が文字情報や写真で紹介され、オープンになっていく。大変参考になっている。

